



写真：枝先についた霧氷（撮影：令和3年1月9日）

「霧氷」

冬の花

12月に入ると冬本番。えびの高原は一日中氷点下の日も珍しくなくなり。木々は葉を落とし、登山道を歩くとサクサクと霜柱を踏みつける独特の感触が靴底から感じられます。

冬の霧島山の一番の見どころといえば「霧氷」を想像する人も多いと思います。冷え込んだ湿度の高い日、木々の枝に霧の粒がぶつかり、凍り付いて大きく成長していきます。主に夜、発生することが多いですが、日中も霧が晴れたら山肌が真っ白になっていることがあり驚かされます。タイムミングが合えば霧の中の登山中、目の前で霧氷が成長している様子も見ることが出来ます。

写真はコバノクロツルの枝に発生した霧氷。風向き、木の種類、形によって霧氷の姿形が変わり、その時だけの特別な姿をした木々の造形美を楽しむことができます。たくさん冬の花に囲まれながら、シンと静まった独特の雰囲気の中、冬の霧島山を楽しんでみませんか。

（文）えびのエコミュージアムセンター



※ QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。